

ゲルパック消火剤共同開発

投下精度向上へ実験

と業 大の企 鳥米子

鳥取大と米子市の企業が共同開発したゲルパック消火剤の投下精度向上を目的にした公開実験が18日、鳥取市の鳥取港岸壁で行われた。ヘリコプターで異なる高度から目標に向けて複数回投下。消火剤の散布範囲や落下精度などのデータを収集した。

実験は、県消防防災ヘリが約30㍎、60㍎、90㍎の高度から計7回投下。ヘリ搭載のGPS記録による投下地点と実際の落下地点との

ずれを計測し、風向きや風力の影響度合いを調べたほか、高度変化で生じる散布範囲への影響、地表に対する衝撃力についてもデータを収集した。同研究科の松原雄平教授は「高度を変えることで同一資材でも散布範囲をコントロール

可能だと実証できた」と結果を評価。「消火や延焼防止など目的に応じた活動に対応できる」と自信を見せた。

昨年、大規模な泥炭火災が発生したインドネシアも注目している。とされ、朝山社長は「パック自体に再燃防止成分を取り入れるなど着実にレベルアップしている。普及に向けてPRしたい」と意気込んでいる。

ゲルパック消火剤はゲル化(ゼリー状に凝固)した水が詰まったパックを航空機から投下することで効力を発揮。放水では霧状になって火元に十分届かない森林火災などで役立つ。



上空約30㍎地点からゲルパック消火剤を投下するヘリ。18日、鳥取市の鳥取港岸壁

2016年2月19日

日本海新聞